

神美民話

## 【三開山落城秘話(その1 焼き米のこと)】

香住、駄坂、木内、大篠岡と四部落にまたがり一名但馬富士ともいう。

この頂上には城跡ありて本丸千畳敷倉屋敷等、その跡が依然として残っている。

延元のころ、新田義貞の長男新田左少将義宗の居城であったが、山名時氏に攻められ義宗は城に火を放って丹後に逃れた。

この城は康永年間時氏の居城になったが、時義は後に子盗城に移ったと称されている。

この義宗が城に火を放った時、倉屋敷の焼失によって大量の兵糧が焼かれ今でも焼米が掘り出されている。

この城跡の西側に横穴式石室を有する古墳が数基散在している。

香住側の麓には舟かくしという字の所があつて、そこには舟の入る位の洞窟が三カ所ほど現在でも残っている。

この山は展望よく豊岡盆地出石方面を一望することができる。

栄木竹志記 (「豊岡民話 耳ぶくろ(昭和 50 年発行)」より)

三開山(立石地区より)



## クイズ【6】のヒント

